

山中漆器産業技術センター 中期経営目標

(実施期間 平成30年度～平成34年度)

平成30年3月 策定

1 施設の設置目的

山中漆器の原点である「挽物轆轤（ひきものろくろ）」の技術習得と後継者育成を行い、山中漆器産地の振興を図るために設置しています。

2 施設の果たすべき役割

全国で初めての挽物轆轤技術研修所として、轆轤技術に関する知識技能はもちろん、新しいデザインや造形感覚を身に付けた将来の山中漆器を担う優れた人材、並びに産業界に即応できる技能者を養成することを役割としています。

また、山中漆器に従事する者に対して、漆芸教室等により職人の技術向上に努めているほか、平成30年4月からは、「レンタル工房」の開設により若手木地師の自立開業を支援し、山中漆器産業のさらなる発展・振興を図っています。

3 事業内容

(1) 轆轤研修事業

人間国宝や日本工芸会正会員をはじめ、美術大学教授等の多彩な講師陣による講義や実習などから、多角的に学ぶことができる体制で運営しています。

① 基礎コース（2年制・定員5名）

挽物轆轤技術の基本的知識の修得と、制作・加工を通じた轆轤の基本的技能を修得できるコース

② 専門コース（2年制・定員5名）

挽物轆轤技術の基本的知識を修得した人が、立案からモデリング、製図、仕上げまでの高度な専門的知識と技能を修得できるコース

(2) 産業振興事業

① 人材育成事業

山中漆器産業に従事する企業主及び職人の技術向上を図る「漆芸技術研修」や、漆器産業に役立つITの知識技能を習得する「パソコン研修」などを行っています。

② 産地活性化支援事業

歴史を学び商品開発や販路開拓に役立てる事業等、山中漆器の活性化にかかる支援を行っています。平成30年度からは、観光客等に轆轤挽き体験・施設見学をしてもらうことにより山中漆器の普及啓発に努め、漆器の需要喚起を図っていきます。

③ 施設・設備の貸し出し

講義室や、山中漆器の制作に必要な設備を貸し出しています。また、平成30年度からは、レンタル工房の運用を開始します。

4 現状と課題

(1) 管理運営体制について

- ・石川県立山中漆器産業技術センターでは、施設を効率的・効果的に管理するため、指定管理者制度を平成18年度から導入しています。
- ・施設における轆轤研修事業、産業振興事業、施設・設備及び備品の維持管理及び修繕などの業務は指定管理者が行っており、当中期経営目標の実施期間である平成30年度～平成34年度までは「公益財団法人 山中漆器産業技術センター」を指定管理者としています。
- ・県では、指定管理者による適切な管理運営を行うため、事業内容の確認など管理業務に関する情報共有に努めています。

(2) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・入学者数については、ここ数年、基礎コースにおいて定員を満たす状況が続いていますが、地元の高校・短大・大学の進路指導担当者に対して、夏休み前から募集活動を行ったり、当センターの夏季休業期間に轆轤挽きや蒔絵の体験を行うオープンキャンパスを実施したりするなど、引き続き、積極的な募集活動とセンターのPRを行う必要があります。専門コースについては、基礎コースを修了した者が主な入学者となるため、基礎コースの定員を確保できるよう、努めていく必要があります。
- ・地元の職人等を対象とした漆芸教室や経営セミナー、施設・機器の開放、高校生を対象としたオープンキャンパス等、山中漆器産地の振興に寄与する事業を実施していますが、これまで以上に利用者に満足いただくため、今後とも事業の充実に努めていく必要があります。

(3) 施設運営の効率化について

- ・施設の管理運営については、平成30年度にレンタル工房の運営が始まることも踏まえ、これまで以上に経費節減とより環境に配慮した取り組みを徹底し、併せて老朽化した建物や設備等に対応した維持管理を行い、より一層適切な管理運営に努めていくこととします。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標

- ① 基礎コースの入学志願倍率は、引き続き1.2倍以上を維持します。
- ② 専門コースの定員充足率は、80%以上を維持することを目指します。
- ③ 利用者アンケートによる満足度において、利用者サービス、施設の維持・管理とも、95%以上を維持します。
- ④ レンタル工房入居率100%を目指します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標		基準値 (H26~28平均)	中間目標値 (H32)	最終目標値 (H34)
① 基礎コース入学志願倍率（定員5名）		1.3倍	1.2倍以上	1.2倍以上
② 専門コースの定員充足率		76.7%	80%以上	80%以上
③ 利用者アンケートによる満足度	利用者サービス	99.3%	95%以上	95%以上
	施設の維持・管理	98.8%	95%以上	95%以上
④ レンタル工房入居率		—	100%	100%

6 指定管理者が設定した目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

- ・ 轆轤の実技実習時間数を増やし、より一層挽物轆轤技術向上に努めます。
- ・ 講師の高齢化が進んでいることから、後任の講師育成に努め、充実した研修を実施してまいります。
- ・ 当センターの知名度の向上を図り、入学志願者の増加にむけて、オープンキャンパスや山中漆器まつり等に合わせた施設の一般開放等を行います。
 - 山中漆器まつり（5月） センター設備を使用
 - オープンキャンパス（8月） 轆轤挽き・蒔絵の体験
 - 研修生作品展（10月） 石川県大阪事務所
- ・ より多くの方々に山中漆器や当センターを理解してもらうため、しいのき迎賓館での企画展（3月）や、平成30年度から増設する体験用ろくろを活用した轆轤挽き体験及びレンタル工房等センターの見学受入を充実していきます。
- ・ 地元の高校、短大、大学からの入学志願者を増やすため、研修担当職員が夏休み前から、各校の進路指導担当教官と密接に連絡し、学生に山中漆器やセンターを知ってもらうため、学生への施設紹介を依頼していくほか、センターにおいて実施する轆轤挽き及び蒔絵の体験学習に参加するよう働きかけます。

- ・ホームページについては、他の研修施設との違いをアピールするため、山中漆器の原点である挽物轆轤技術の解説や、重要無形文化財保持者（人間国宝）である川北良造所長を筆頭に充実した講師陣を紹介するとともに、カリキュラムの詳細な説明などにより、内容の充実を図ります。
- ・挽物木地の受注システムや IT 機器を含む施設の開放など、山中漆器産地活性化のための事業の充実を図ります。

(2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・常に清潔で安全快適な館内環境を提供するため、こまめに点検・保守・修繕作業を実施するとともに、引き続き光熱水費等管理コストの縮減を図ります。

参考資料

1 施設の利用状況

(1) 利用指標(利用人数、稼働率などの状況) ※各年度4月学生数には休学者、復学者含む。

【基礎コース】

指標	単位	H26	H27	H28
定員充足率	%	120.0	110.0	110.0
総定員(各学年5人)	人	10	10	10
各年度4月学生数	人	12	11	11
1年	人	6	5	6
2年	人	6	6	5
志願倍率(翌年度入学者入試)	倍	1.60	1.20	1.20
志願者数	人	8	6	6
合格者数	人	6	5	6
就業率(進学者を除く)	%	100.0	100.0	100.0
卒業者数(うち進学)	人	6(4)	6(4)	5(4)
関連産業就業者数	人	2	2	1
うち県内	人	1	1	1

【専門コース】

指標	単位	H26	H27	H28
定員充足率	%	70.0	70.0	90.0
総定員(各学年5人)	人	10	10	10
各年度4月学生数	人	7	7	9
1年	人	3	4	4
2年	人	4	3	5
志願倍率(翌年度入学者入試)	倍	0.60	0.80	0.80
志願者数	人	3	4	4
合格者数	人	3	4	4
就業率	%	100.0	50.0	100.0
卒業者数	人	4	2	4
関連産業就業者数	人	4	1	4
うち県内	人	3	1	2

(2)利用者アンケート指標(利用者サービス、施設の維持管理) (単位:%)

【利用者サービス】

項目	H26	H27	H28
良い・概ね良い	100.0	98.0	100.0
やや悪い・悪い	0	2.0	0

【施設の維持管理】

項目	H26	H27	H28
良い・概ね良い	96.4	100.0	100.0
やや悪い・悪い	3.6	0	0

(3)使用許可等の状況 (単位:件)

項目	H26	H27	H28
施設使用	6	3	1
開放機器使用	137	133	99
計	143	136	100

(4)使用料の収入実績 (単位:円)

項目	H26	H27	H28
施設使用	8,905	4,610	0
開放機器使用	66,030	83,080	53,220
計	74,935	87,690	53,220